

第3回講演会報告

西村昌能 (京都府立洛東高等学校)

本 NPO 主催、京都大学総合博物館、京都大学宇宙総合学研究ユニット共催のもと、今年度第3回目の講演会が2008年12月13日(土)13:30-16:30の時間帯で京都大学理学研究科6号館4階教室にて開催され、105名の参加者がありました。講演会は、本 NPO の黒河宏企理事長の挨拶と NPO の紹介から始まりました。特に2009年7月22日の皆既日食観測隊のことについて聴衆も大きな興味を抱かれたようでした。

最初の講演は松田卓也 神戸大学名誉教授の「地球温暖化太陽起源説」でした。世の中、二酸化炭素の放出による地球温暖化が声高に叫ばれているが、果たして人類の活動による二酸化炭素が現在の気候変動の主要因なのだろうか。先生は百年、千年、一万年、百万年、一億年のスパンで気候、特に平均気温の変化をみると太陽活動と強い相関関係が見えてくる。地球温暖化の原因を人為的であるとする方々を「正統派」、そうではなく、自然や宇宙に起源があるとする一派を「懐疑派」と名づけておられ、先生自身は懐疑派であるとおっしゃいました。現在は間氷期で温暖であるがいつ寒冷になるか、氷河時代がくるかしのれないし、人類にとって寒い時期より暖かい時期の方が繁栄しているので都合が良く、寒冷化の方が脅威である、と話されました。



また、人口の爆発的増加による成長の限界が訪れ、食料危機、石油の枯渇などに注意を向けるべきであろうと熱っぽく語られました。詳しくは、あすとろん No3, p13 の記事をご覧ください。

2 番目の講演は小山勝二
京都大学教授の「超新星で京
都 1000 年の天文学を辿る」
でした。先生は X 線天文学の
大家ですが、最近、お笑い芸
人の「爆笑問題」と絡むこと
が多くこの手の方面でも結構
有名になられています。さて、
初めに NHK 大河ドラマ「篤
姫」のスライドが現れピック
リしました。このドラマには、
土御門藤子なる女官が登場し、彼女は幕末の朝廷工作をするのですが、実
は天文博士安倍家の末裔だったのです。藤原定家は安倍家の客星の記録を
『明月記』に書き写し、その中に平安時代に起こった超新星の記録が 3 件
もあります。先生はそれらの超新星を X 線観測衛星「すざく」で観測され、
数々の貴重な結果を引き出されました。今も X 線を放射している超新星の
研究こそは京都 1000 年の天文学を辿る旅だったのです。京都の天文ゆかり
の各所を結ぶ「京の天文学街道」を提案され、お話を終わられました。講
演終了後も、予定時間を越える熱心な質疑応答が行われました。



右から司会の作花、講師
の小山、松田、司会の柴
田、および筆者

なお『明月記』の客星については p11 の白井氏の記事をご参照ください。